第６回室戸市統合中学校あり方検討委員会議事録（概要）

日　　時　　令和７年１月３０日（木）１９：００～２０：２０

場　　所　　室戸市役所２階第１会議室

出席委員　　小松伸稔委員長、手島泰副委員長、小松武志委員、萩野慎人委員、
松尾拓哉委員、中屋康一郎委員、北川弘美委員、貝川和嗣委員、
黒岩文弥委員、中原洋人委員、中村幸奨委員、作田将基委員、
勝田真也委員、岡田茂委員、西本啓純委員、京田ひとみ委員、
町田幸寛委員、石建結香委員、森岡美和委員　計１９名
欠席委員　　松吉由季委員、谷渕隆二委員、上田摩美委員、杉本優委員、
井口司委員　計　５名
事 務 局　　百田教育長、山本教育次長兼学校教育課長、
祝学校教育課長補佐、髙﨑学校教育課班長　　計４名

議　　題　　⑴　室戸高等学校施設の統合中学校共用にかかる高知県教育委員会への報告について
⑵　検討委員会のスケジュールについて
⑶　統合に伴い配慮を要する事項に関することについて
～多様な課題を抱える児童生徒への支援～

議事録（概要）

１．開会

２．議題

⑴　室戸高等学校施設の統合中学校共用にかかる高知県教育委員会への報告について

事務局説明 （学校教育課長）	**資料　第６回資料１** 令和６年９月市議会で、統合中学校整備について、室戸高校の共用について再度県教委と協議する必要があるとの理由により、関連予算を削除する修正動議が可決されたことを受け、議会閉会以降、市と県教委とで協議を行った結果、市としては、生徒と保護者、教職員が望む教育環境を整備することが難しいことから、室戸高校の共用は難しいと判断をし、その旨を 11 月 25 日付で高知県教育委員会に報告、12 月 25 日の議員説明会で市議会議員に説明を行った。 この経緯については、委員の皆様には議員説明会終了後に個別に

	連絡をさせていただき、保護者、市民の方にも教育委員会ホームページ広報２月号、「すぐーる」により周知を行っている。 １ページ右側が県教委への報告書で、室戸高校の共用が難しいとした理由５点をあげている。 ２ページは県教委から示された中学生用として利用可能な個所の図面、３～４ページは現地視察における出席者からの意見、９月に各中学校長からいただいた意見を載せている。 ５ページ以降は視察時の写真。 議員説明会での質問としては、大きく２点あり、１点目は、「方向性は決定事項なのか」と言う質問に対して「市としての方向性を決定した」と答えている。 ２点目は、「１棟貸しについて、市から県教委に確認して難しいと回答を得た」との説明に、「市の交渉の仕方が悪いのではないか、南校舎にある特別教室等の機能を全て北校舎に移して、南校舎に中学校が入れるようにして、改修費用は市が全額見るという提案ができなかったのか」という意見が出された。 一棟貸しについては、県教委に何度も確認させていただき、高校も必要な教室数の確保が必要であり、今以上の提案はないと確認していると説明したものの、もう一度提案すべきとの意見をいただいた。そのことを受けて、１月２４日に再度、私と担当課長補佐が県教委を訪問し確認をしましたが、高等学校振興課からは、一棟貸しはこれまで通り難しいと回答いただいた。 統合中学校整備については、消防裏の現候補地で新築による整備を進めていく方向性で、関連予算をこの３月議会に令和７年度の当初予算として計上予定。
委員長	質問やご意見はないか。
委員	なし

⑵　検討委員会のスケジュールについて

事務局説明 （学校教育課長補佐）	**資料　第６回資料３** ・当初５月から令和７年３月までの全１０回を予定していたが、第４回以降内容の一部変更や一時休止をした関係で、スケジュールを５月まで延長させていただきたい。引き続き協力をお願いしたい。

委員長	第１回から委員の皆様にはたくさんのご意見を聞かせてもらったので、引き続き５月までお願いできるか。
委員	異議なし

⑶　統合に伴い配慮を要する事項に関することについて
～多様な課題を抱える児童生徒への支援～

事務局説明 （学校教育課長）	**資料　第６回資料２、資料４～資料６** 資料２は令和５年度の地域説明会等で出された保護者の方からの意見をまとめたもの。大きく２つあり、１つは、「学校に行けなくなった時の支援」。もう１つは、「特別支援教室や別室登校等、他の生徒と同じスクールバスに乗れない等の通学時の課題」。 本日の議題は、教育委員会としても統合中学校開校にあたり、重要かつ大変難しい課題と認識している。 第４回検討委員会では、不登校を生じさせない取り組みとして、室戸中学校長より室戸中学校での取組、高知県教育委員会人権教育児童生徒課チーフより高知県での取り組み、教育研究所長より室戸市内の不登校等の現状について説明いただいた。 統合までの事前の取組が非常に重要と考えており、様々な立場の方から意見をいただきながら統合までにできる準備はしっかり取り組んでおくことが大事と考えている。 資料４では、室戸市内の不登校等の現状として、直近５年間の中学生の「不登校傾向の生徒数」、「室戸市教育支援センター在籍生徒数」、「就学指定校変更申請者数」を示している。 資料５は、実際に不登校になってしまった生徒の現時点で考えられる居場所として３つ示している。 「校内サポートルーム」は、現在室戸中学校に設置。 「教育支援センター」は、ふれあい教室を設置。 「自宅における ICT を活用した学習活動」。 「教育支援センター」と「自宅における ICT を活用した学習活動」の取り扱いは、資料６に文科省からの通知を抜粋している。 別記１において、学校外の施設において相談、指導を受けた日数を指導要録上出席扱いとすることができるとされている。また、別記２では、

	ICT を活用した自宅における学習活動においても指導要録上出席扱いとすること及びその成果を評価に反映することができるとなっている。これらが、現時点で不登校になった生徒への支援と考えている。 資料２の下段、スクールバスに乗れない生徒については、原則、保護者による送迎をお願いする形になると思われるが、それによりがたい場合の課題や必要な対策等を皆様からご意見をいただきたい。
事務局説明 （学校教育課長補佐）	中学校の統合を行った県内４市に不登校等への対策についてお伺いしたので、口頭になるが報告する。 令和６年度市内１校となった安芸市、１０年以上前から市内１校となっている土佐清水市、令和１０年度に市内１校を予定している土佐市、令和８年度に現在の市内５校から２校を予定している須崎市の４市。 校内サポートルームについて、未設置の市は、学校へ行くことがしんどい生徒にとっては、学校へ行くこと自体が難しいとの理由で導入はしていないとのこと。設置市としては、土佐市の高岡中学校、土佐清水市は今年度より設置。土佐清水市からの話では、これまで保健室登校での対応であり、本来の目的で保健室を利用したい生徒が使いにくい等の課題もあったが、サポートルーム設置により、学校へ行くハードルが下がり、利用が増えたとの話を伺った。 教育支援センターは、各市設置しており、安芸市ではセンターまでの親の送迎が難しい場合は、市役所発着での送迎をしているとのこと。須崎市では、教育支援センター、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーとの連携による支援などをされている。 ICT 活用の視点では、土佐清水市の教育支援センターでは、リモートで学校とつなぐなどの対応もしている。 自宅からのリモートは今後の課題。 様々な事情によりスクールバスに乗ること自体が難しい生徒への支援について、対象となる生徒がいないといった市もあったが、スクールバスでの対応が基本となり、現状では個別対応は難しいという話を伺った。 ４市とも重要と捉えていたのが、統合までの事前交流。 子ども達が早くからお互いの顔を知り、交流を深めていくことでできる限りの不安を解消して、スムーズに統合できるような環境づくりが大事。

	７月の安芸中学校視察時における校長先生の話では、いかにスムーズに統合をスタートさせるかということで、教職員が一枚岩になり、統合２年前から合同の研修会をするなど、小学校とも連携をしながら進め、統合までに事前交流も６回実施をしたと聞いている。その度に、振り返りのアンケートをとり、クラス編成にも半年かけて対応したと聞いた。不登校であった子どもも「新しい」というキーワードで学校へ行くきっかけになり、子どもたちは全員が転校生の気持ちでリセットして新年度を迎えていたとのことで、７月の視察の時点で新１年生には新規の不登校は出ていないとの話を聞いた。 各市からいただいた話の中では、初年度は同じ地区の生徒をなるべく同じクラスに配置する等の配慮も考えているとの話を聞いた。 意見交換の参考にしていただけたらと思う。
委員長	この委員会では、多様な課題を抱える児童生徒への支援に関する不安なこと等の課題をひろい上げるまでを今回の作業としており、それ以降は開校準備委員会で具体的に決めていくこととなるので、忌憚のない様々な意見をいただけたらと思う。 意見交換の前に、事務局の説明に対して質問はないか。
委員	なし
委員長	それでは、各テーブルで多様な課題を抱える児童生徒への支援についての意見交換を行っていただきまして、課題を出していただきたい。時間は１０分程度とする。
グループ内意見交換（10 分間）	
意見発表	
１班	・今回の問題は、地域説明会の中でも保護者の中からかなり意見が出た内容。統合中学校としても一番の課題。数字を見ると、不登校気味の生徒の多い中学校に行かせることに不安を抱えている。今は解決に向けて、先生方も対策を取ってくれていると思うが、統合までにしっかり対策して、どういった課題で不登校なのかも分かっていると思うので、県と市と地域も一緒になって解決していってもらいたい。 ・統合した市で知り合いから聞いたが、１年目にとても荒れたらしいが、統合すると決めた以上はそうならないようにやってもらいたい。 ・スクールバスについては、バスに乗れない子の送迎は家庭環境によって変わると思う。佐喜浜、羽根、吉良川等距離がある地域についても、親の送迎は厳しいのではないか。もう少し統合までに

	考えていかないといけない。移住者を呼ぶとしても、近くに通える学校のある地域に行きたいという人もいると思うので、しっかり考えてもらいたい。 ・不登校になった場合の話、カウンセリングルームと保健室を利用したことがあったが、保健室は他の生徒が来るので、しんどいところがある。カウンセリングルームはカウンセラーの先生が常駐していたので、かなりゆっくりできて、そこでテストも勉強もできた。そんな仕組みづくりは大切。 ・ICT 活用して家でと言う話、自分たち世代は、学校行かなくてもいいよという話もあったが、これからは学校に行く方向に持っていかないとだめという教育方針に変わっていくのではと教育関係の知り合いから聞いた。その時に話では、カウンセリングルームに ICT を活用して教室の状況が見られるなど、とにかく家から出ていく方向に持っていかないと不登校生徒が増えることで、社会に出た時に人とのコミュニケーション能力が落ちていくという課題もある。
2班	・地元に安全に通える学校があるのに、なぜバス通学をしなくてはいけないのかが第一で統合には大反対だった。不登校気味で気が向いたら学校へ行けるという状態の子どもが、家から通える学校だから、行きたい気持ちになるが、離れた学校でそういう気持ちになるのか。 ・子どもが行きたいとなった時に、親は仕事で無理、バスも乗ったことない、タクシーも呼び方分からない。そういった課題は、教育センターとか言うが、各地域にあるわけじゃない。各地域に支援できる場所を構えるべき。 ・コーディネーターを置くという話は、学習のサポートもしてもらえるのか。教員なのか。
委員	・国が校内サポートルームに教員を置く取り組みをやってくれている。国費でやっているので、手を上げたら全てというわけにはならないが、国が動いてくれている。教員でない方にコーディネートを任すというのではなく、教員免許を持っている人をそこに充てるという国の流れで進んでいる。
委員長	・統合加配で、教員も配置されると思うが、ずっと続くのか。
委員	・統合加配は1年。
2班	・1年だけではそういう問題は解決できない。1年位で解決できるなら、今現在不登校なんて出ていないと思う。学校で個別に対応

	している状態でも不登校児童が出るという現実があるので、コーディネーターや教員が個別につくことで良くなるのかというとそうでもない。一旦学校に行けるようになっても、ちょっとしたきっかけでまた不登校になる。先生たちが気を付けて対応してくれても、どんなきっかけで不登校になるか分からない。その子によって違う。家庭で対応できるのなら良いが、家庭でもなかなか分からないし、学校の先生もその子の性格が全てわかっているわけではない。カウンセリングの先生も合えばいいが、合わなければ逆効果。カウンセリングの先生がいても不登校が解決するわけではないので、幅広い目で見てもらわないと不登校児童は0にはならないと思う。 ・地域が見守りながらでも不登校児童はやっぱりでるので、細かいところまで、腹をくくって考えないと室戸から中学生が一人もいない状況になってくる。
3班	・皆さんの意見と重なる部分が多いが、各地区に教育支援センター等の場所やフリースクールみたいな別枠で市ではない部分と協働したところで面白い施設をつくってもいいのでは。 ・不登校は0の地域はあり得ないので、その前提で話していった方が、0は目指すが、建設的に話を進めて行って欲しい。
4班	・安芸の視察の時に、交流6回とあったが、誰と誰の交流か。
事務局	・安芸中学校と清水ケ丘中学校の生徒の交流。
4班	・すごく良いと思う。他の地区の子どもたちと交流できる機会を多くとってもらいたい。普通に会って自己紹介もいいが、緊張して無理と言う子どもと人に会えることがうれしい子どもの落差があると思うので、大人が見守りながら仲良くなる仕組みが良い。自分たちの時代では、フルーツバスケットとか単純な仕組みでもいいが、コミュニケーションがとれる仕組みを何個か用意して何回かやって仲良くなったら、統合中学校に行くか行かないは別として理解し合えることは良いことだと思う。仲良くなる仕組み、交流の数をできるだけとる。 ・普通に通える生徒に対して、多様な課題を抱える児童生徒のことを説明して理解する機会を設ける。些細なことで通えない生徒がいること、自分事に感じられるような方法で興味を持たして引き付けて、理解してもらえるような、記憶に残るような子が、全部とは言わないが、3分の2くらいいれば、どんなことがしんどいのか考えられるようになるのではないか。

5班	・室戸中学校は、県の指定事業を2年間いただき、9月に発表させてもらったが、自分は室戸中学校でずっと言っているのは、統合中学校になった時に不登校が増えたら自分たちのやっていることは失敗、そうならないようにやろうと、新たな不登校を0にする。大阪から来てくれた講師からそんなの無理なこと言うたっていかんと言われたが、自分が無理と思ったらできない。自分は目指しますと言ってきた。統合中学校に向けてフロントランナーでないといけないと思っている。 ・不登校に関して、確かに今苦戦している。実際いろんな要因があり、勉強が難しいとか、部活、人間関係に苦しんでとかあるが、一番多いのが小学校からの人間関係が大きい。限られた集団の中でずっと来て、これが思春期になってぱっと出てきて不登校になってしまうパターンも多いと思うので、そこが大きなカギと思っている。 ・安芸中学校は6回交流したというが、もちろんやらないといけないし、それをもっと伸ばして小学校段階からも交流していかないといけない。統合して終わりではなくて、小学校低学年からずっと交流させてあげないといけないと思っている。 ・固定化された人間関係の中で上下関係ができてしまう部分が、不登校になってしまう一つの要因として大きな部分があるので、それでもあの子と同じ学校に行けるならということがプラスに働くと思う。そう考えた時に、統合中学校を考えていく中で、固定化された人間関係が崩れるという部分では、一つ環境が変わる大きなきっかけとして使えるのではないかと思っている。 ・統合に向けて教育委員会でコーディネーターしてくれる人がいる。学校の先生がやるとなったらなかなか難しい。 ・他市の中学校が統合した1年目に荒れた話は自分も把握している。その時何がいけなかったかというと、自分が聞いた話では、交流をあまりせず急いでしまった部分があったからと。その中学校に通う子どもさんがいる先生からの話でも、やはり交流が必要と言われていた。 ・新たな不登校を生じさせないために、新しい友達ができて、同じ学校に通いたいとわくわくさせてあげられるような仕組みを作ってあげたら良いと思う。
副委員長	・市内の各小中学校に年間何回も回り、子どもたちの状況を先生たちと話をして、大体の事は把握しているつもりだが、学校ごとに学力

	や生徒指導など課題が違うが、各学校の先生は真剣に取り組んでくれている。室戸中学校も不登校の生徒は、他の学校に比べ多いが、例えば、週１回校内支援会を開いて不登校だけでなく、家庭的な環境や特性等について教育研究所と交えてどういう風にやっていくかの話をしている。室戸中学校だけでなく他の学校もそう。ただ、結果が出ないのが本当に難しいところで、結果がでなくてもこうやって取り組んでいるということは大事なこと。先生方は決してあきらめてはいない。 ・統合中学校になった時の人間関係が心配という点について、もちろんそうだと思うが、これからどうしていくかは開校準備委員会でも話し合われていくと思うが、安芸中学校の校長が言っていたのは、統合中学校へ入学の時点で、それまでの人間関係がリセットされるので、メリットもあると言っていた。一つ大きい所と思う。リセットするためにはどうするかというと事前の交流。研究所の立場としても教育委員会にも話をしたことがあるが、教育委員会も小学校の段階から必要との意向がある。 ・各班の話を聞いて、皆真剣に考えてくれている。不登校だけじゃなくていじめや生活環境、たくさんの課題があると考えて、真剣に皆さんと考えていければと思う。
委員長	・開校の前には、小６、中１、中２は当然同学年での交流、学習、人間関係作りが必要と思うが、それだけではなく、それ以前のもっと小さい段階から可能な限り、交流等の教育環境を作っていただくのも、教育委員会への要望と思っている。 ・各班の意見をいただいたが、全体通してご意見等はないか。
委員	・学校の立場の人間として、この場で色々な意見を聞くのは本当にありがたい。不安、心配されていることをたくさん出してもらい、そこを学校として何ができるかというのは考えていかないといけない。 ・子どもたちがわくわくするような学校を作りたい。楽しい学校をつくったら、きっと不登校は減っていくだろうと。絵にかいた餅かもしれないが、そういうことをやっていかないといけないと真剣に思っている。この中で出てくる通学の不安やその他の部分は、教育委員会に環境整備してもらわないといけないが、学校としたら、子どもらが、明日も行ったら何かが起こる、わくわくする楽しいなと思う学校を本気で作っていこうと思う。
副委員長	・保護者の方も子どもが学校に行かないというのは一番つらいと

	思う。それと同じように、教師も子どもが学校に来ないのは一番つらい。子どもが学校に来て喧嘩するとかあっても、子どもが学校に来ないことが教師にとっても一番つらいこと。それに向かって我々は取り組んでいければ、少しだけでも変わっていければと思っている。
委員長	・その他ご意見はないか。
委員	・わくわくするという言葉は好きな言葉。子どもの時は楽しかったら笑っていたのに大人になったら忘れる。中学校で子どもに対してわくわくさせる仕組みは、例えばどんなことがあるのか聞きたい。
委員	・今年、生徒会では一生懸命いろんなことをやってくれているが、生徒会でやっていることがやらされている感じになっていたので、面白いことやってみたらやらしてあげるからと話をした時、一番最初に返ってきた言葉は「室戸の海浜清掃」、もっと目立つことやったらと話したら、子どもたちは、「タコタコ公園にゴミ拾いしながら行きたい。そこでレクをやらせて欲しい」と、本当にあなたたちは楽しめるのかと、他の皆がしんどいと思ってもあなたたちが楽しいと思うならやらせてあげると言った。結果、一生懸命動いてくれて、その子たちが町の人たちがありがとうと言ってくれるのがうれしかったと言ってくれた。自分達が楽しいと思ったら、皆楽しんでくれると思って、熱中症も心配だったが、鬼ごっこみたいなことして必死で走り回っていた。やった子どもたちは大満足で生徒会もやって良かったまたやらせて欲しいと言われた。１回やったので、もうえいやろと突っぱねたが、それでもやりたいと言って、もう1回、１２月にクラスマッチをやった。 ・最後に、生徒会の子たちが、「いろいろなことを考えてやらせてもらって、休み時間はなかったけど、すごく充実していた」と言っていた。新しい執行部の子に対して、「自分たちを乗り越えていくのは無理だと思う」と言ったら、新執行部の代表は「乗り越えます」と言った。新執行部は何をするかなと思ったら、その子たちは考えて、朝の挨拶運動を週に３回職員室の前に立って大きな声で挨拶をしてくれている。今までの執行部も挨拶運動はしていたが、声は大きくなかった。そんなことが自分もうれしくなった。この子たちなりに楽しい学校ってどんな学校かなと。今年、「楽しい学校」は「笑顔の学校」は楽しいはずやと笑顔の取組をしてよと執行部が考えた取り組み。挨拶運動を大きな声で始めてくれたし、そういうのを見ると自分たちもうれしくなるし、子どもらなりにわくわく

	する学校づくりをしてくれていると思う。
委員長	・生徒会の活動は、生徒会だけでなく全校に広がるでしょうし、まず教員が笑顔でと言うのは大事。そのような取り組みをされていると思う。 ・他に意見はないか。
委員	なし
委員長	・今回出された意見は、７年度以降の開校準備委員会で必ず反映させて決めて行っていただきたいと思っている。 ・全体を通して何か意見はないか。
事務局	・２班から統合中学校に対する意見が出たが、地域説明会の際に地域の強い思いというのがあって、今でも統合に賛成、反対の方はいると思う。そうした中で、反対されている方たちの思いも含めて、統合中学校を開校するという方向に決めたので、今日のように色々な立場の方の意見は必要で、そうした方々の思いを含んだ統合中学校は、中学生にとって良い学校にしていかなければならないと思っている。今後も、ご意見等をいただき、教育委員会も応えることができるよう考えていきたい。

終了